

第2回坂戸市美術展覧会 審査委員講評

◆ 絵画部門

審査委員（敬称略） 瀨田 邦明 / 山本 耕造 / 大塚 利典

・ 一般の部

今回、審査を行うにあたり皆様の作品を拝見し、賞を選ぶとなると、優劣つけがたく大変な作業となりました。個々の表現等さまざまで、審査委員の方々と意見を交わしながら賞を選びました。中でも市長賞に選ばれた作品、「緋い首飾りの少女・芳紀十七歳」は丁寧な仕事で、思わずひき込まれてしまいました。その他受賞作品も力作揃いで、個性豊かでした。絵を描くのは、なかなか難しい事ですが、その過程は苦しみながらも楽しいひとときです。日常の生活から離れた時間を持つのは良い事だと思います。これからも楽しく描いていって下さい。

・ 中学生の部

中学生になると、観察力がするどくなり、色使いや筆使いなど技術的には向上が著しく、光と影の捉え方や質感の表現にこだわりをみせる絵が多くありました。議長賞の色鉛筆画はとても丁寧な仕事で、作者の生活のひとこまを見事に描き出しています。各々のしっかりした写実と共に思春期特有のみずみずしく繊細な感性で日常の風景や身近の静物を描いた作品には感心しました。

・ 小学生の部

出品作品を見て、子供達の感性の豊かさを感じました。それぞれに生活の中から湧き出す心の動きを、素直に色と形に置き換えていることで、一層の魅力を生み出していると思いました。「7才のわたし（モンゴル）」は、遠くの山並を背景に、自分自身をしっかりと見つめているのが秀逸です。「鳥と森」は、何より力強い画面構成に驚かされます。「サーカス団の劇」絵を描いている作者の楽しんでいる気持ちが良く伝わってきます。「不思議な海」イカとカレイの猫写が素晴らしい。生き生きとして青い海を泳いでいます。

◆ 書

審査委員（敬称略） 高橋 観水 / 秋山 桂翠

・ 一般の部

出品作品は今年も漢字作品が多かったですが、かな・少字数・近代詩文・篆刻などの作品もあり、バラエティに富んでいました。入賞作品は、作品全体としての構成もよく、文字の大小や線質の変化、潤渇と筆圧の変化など技術的に高度な作品です。篆刻の作品は、刀の切れ味鋭く、方寸の世界の緊張感が感じられました。市長賞の作品は、行間と余白を意識しながら筆圧をかけた力強い線で書かれており、伸びやかで躍動感のある作品に仕上がっています。なお、誤字に近い文字があったため、惜しくも入賞選考からはずれた作品がありました。また、古典をしっかりと学習し、完成度の高い作品となりました高校生の臨書作品2点を奨励賞としました。

・ 中学生の部

行書ならではの筆脈やリズム感など、課題に対して意欲的に取り組んでいる作品が多く見られました。特に受賞作は生命力に満ち溢れ、筆圧の抑揚、線の深さや豊かさなどが高度に表現されており、本文と名前も調和していました。

・小学生の部

一点一画をととても丁寧に運筆されており、筆づかいにも工夫しながらたくさん練習を重ねてこられた様子がよくわかります。受賞作は伸びやかで生き生きとした線が魅力で、字形（結びの形など）のバランスも見事でした。

◆写真

審査委員（敬称略） 白鳥 正一 / 田尻 かつ子 / 小谷 和己

市長賞『朱炎の舞』は、第一印象は黒バックの中から躍動感あふれる鳥の姿、朱色が鮮やかでピントも良く、作者の狙いどおりの作品に仕上がりました。素晴らしい、写真の持つ一瞬の凝結。

市議会議長賞「山稜の光跡」は、風景の写真に撮るには、すばらしい風景との出会いがないと撮れません。全体を入れ、光跡とのバランスがとても良く撮れています。

教育長賞の「『あの日の青春、フラッシュバック。』」は、高校生自らがその日常を題材に、光と構図を巧みに生かし、教室の静けさと季節感を印象的に表現した感性豊かな作品です。

高校生の作品は、個人個人が身近な被写体に目を向けているところに好感を持ちました。そして、これからも楽しみながら、自由な発想で、のびやかな心で作品づくりを楽しんでいただけたらと思います。

次回も生き生きと豊かな作品に出合えることを願っています。

◆工芸部門

審査委員（敬称略） 西 由三 / 森田 高正 / 高田 兵庫

工芸の評価のポイントは素材、技術、意匠の3つです。材料の良さを引き出す技術で作者の思いを表現出来ているかを見ます。市長賞「伝統和紙による張子金魚の遊泳」は和紙と木目の魅力を見事に引き出した心暖まる快作です。議長賞「昇龍」は鎌倉彫の確かな業が存分に発揮されています。教育長賞「シクラメン」は、有線七宝によって花卉の淡い色合い等、美しく表現されています。坂戸市文化団体連合会会長賞「獲ったぞ」、審査委員特別賞「タペストリー」芸に造形、デザインに優れた秀作です。

中学生の部において市長賞を受賞した神楽面は、今にも踊り出す雰囲気醸し出しており、技量も表現力ともに優れた作品です。寄木細工の作品が多く出品されていました。三色の木材と感性を豊かに構成しながら、用途にも思考を凝らし制作されています。作者の工夫と思いが感じる作品群です。

小学生の作品は、いかにも子供らしい作品、楽しい作品が多くて「秋の時季」というキノコの4年生の世界を明るく表現していました。他に油粘土や厚紙による作品、またアルミホイル、テラコッタによるもの、針金による造形など、楽しい作品が多く、ものを作る世界に明るさを感じさせられました。